

Sumitomo Mitsui Banking Corporation Brazil DAILY MARKET REPORT



Treasury Department

マーケットサマリー

昨日のドルレアルスポット相場は、中銀による50bpの利上げと追加利上げへの思惑から、レアルが対ドルでさらに買われる展開となり、一時昨年12月3日以来の水準となる2.55台まで下落した。今回の利上げ幅は市場予想通りであったものの、公表された声明文から「今後は金融政策による調整を慎重に実施すべき」との文言が削除されたことから、市場の一部では中銀が引き締めペースを加速させるとの見方が強まった。多くの市場参加者は、次回3月4日のCOPOMにおいて25bpの追加利上げを行った後、当面政策金利を12.50%に据え置くと見ているが、「2016年までにインフレ率を目標の4.5%に収束させるため、あらゆる手段を講じる」との見解を示した直近の四半期インフレ報告も勘案すると、次回の会合で50bpの利上げが行われる可能性も残っているよう(今回の声明文は「歴史上最も簡潔な内容の1つ」と評されているが、これが何を意図しているのか解釈は難しく、来週の議事録を確認する必要がある)。また、欧州中央銀行(ECB)が昨日の理事会において資産購入プログラムを公表したこともレアル買いを促した。これを受け、ボベスパ株式指数も前日比0.4%高と3日続伸。

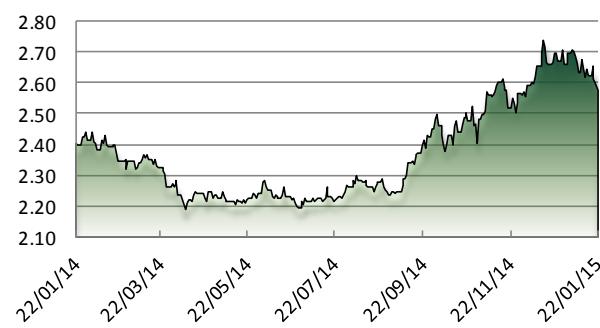
ECBは昨日の定例理事会において、国債を中心として月600億ユーロの資産を購入する量的緩和(QE)プログラムの導入を決定した。期間は今年3月から2016年9月(但し、「インフレ率が目標と整合的な経路に持続的に調整するまで実施」と期間の延長も示唆)。事実上、目標達成まで政策を続けるオープンエンド方式に該当)で、買入総額は1兆1,400億ユーロ(月600億ユーロ×19ヶ月)に達する。月次購入額が事前の観測記事(500億ユーロ)を上回ったため、サプライズな内容と言える。ECBは大量の資金をマーケットに供給することでインフレ率の押し上げを狙う(ユーロ相場下落→輸入物価上昇→デフレ回避)。

マーケットデータ

Indicator	Unit	1月21日	1月22日	前日比	12月22日	1ヶ月前比
BRL / JPY Spot	JPY	45.36	46.02	+0.66	45.06	+0.96
USD / BRL Spot	BRL	2.6010	2.5746	-0.0264	2.6651	-0.0905
USD / JPY Spot	JPY	117.97	118.49	+0.52	120.05	-1.56
Bovespa (ブラジル株価指数)	Index	49,224	49,443	+219	50,121	-678
CDS Brazil 5yrs (クレジットデフォルトスワップ)	bps	206.7	201.9	-4.8	182.9	+19.0
Brazil 10yrs Gov. Bond	%	11.82	11.90	+0.08	12.41	-0.51
DI Future Apr16 (金利先物)	%	12.59	12.67	+0.08	12.92	-0.25
3 Months US Dollar Libor	%	0.257	0.257	+0.000	0.255	+0.002
CRB Index (国際商品指数)	Index	221.2	218.3	-2.9	236.6	-18.3

これらのレートは各市場における終了時点の気配値です。実際のレート提示は弊行担当者までお問い合わせ下さい。

ドルレアルスポットチャート



レアル円スポットチャート

